

<日本経済の基調判断>

景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続けている。

輸出は大幅増加、
生産も増加。

企業収益は改善続
く。設備投資は増加。

個人消費は、
持ち直し。

雇用情勢は、依然
として厳しいものの、
持ち直しの動き。

(先行き)

- ・ 世界経済が回復する中で、日本の景気回復が続くと見込まれる。
- ・ 一方、為替レートなどの動向には留意する必要がある。

<政策の基本的態度>

政府は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003」の早期具体化により、構造改革の一層の強化を図る。この一環として、3月11日、「経済活性化のための改革工程表」をとりまとめた。また、構造改革を推進する中で、平成16年度予算及び関連法案の早期成立に努める。

政府は、日本銀行と一体となって、金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指し、引き続き強力かつ総合的な取組を行う。

今月の説明の主な内容

(1) 基調判断

「景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続けている」

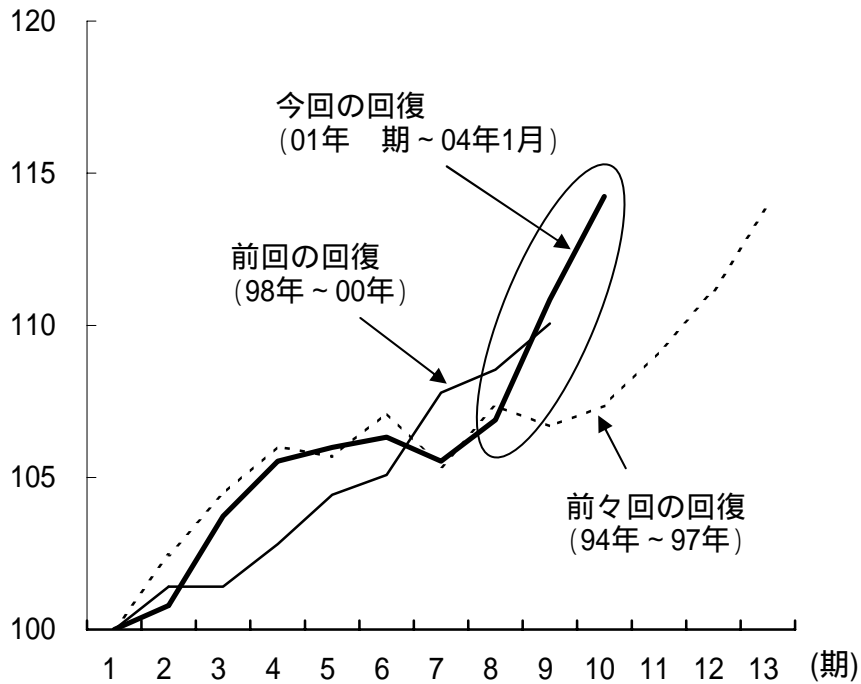
- ・2つのエンジン(設備投資と輸出)の回転続く
- ・個人消費も持ち直しへ
- ・緩やかなデフレ続くも、素材価格上昇で企業物価がわずかながら上昇
- ・世界経済も回復続く 日本への輸出、大幅増加へ

(2) 為替・株式市場の動向について

- ・世界的にドル安修正の動き
- ・出遅れ感のあった日本株価が回復

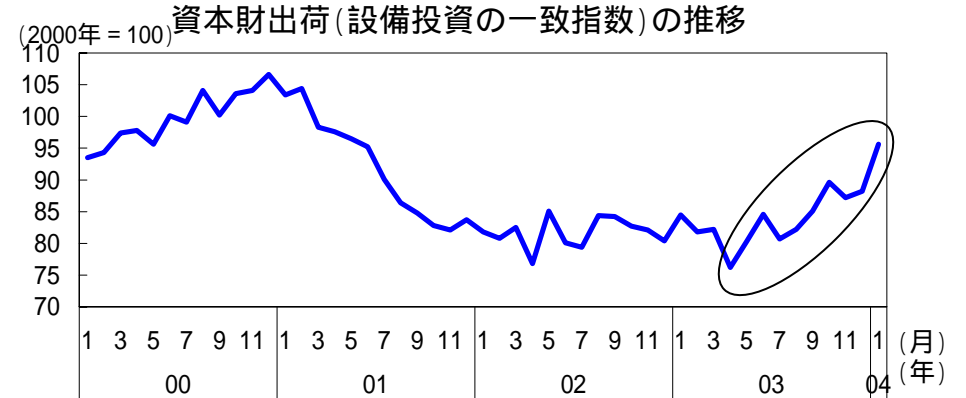
(基調判断)
景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続けている

生産の増加続く
 過去の回復局面との比較

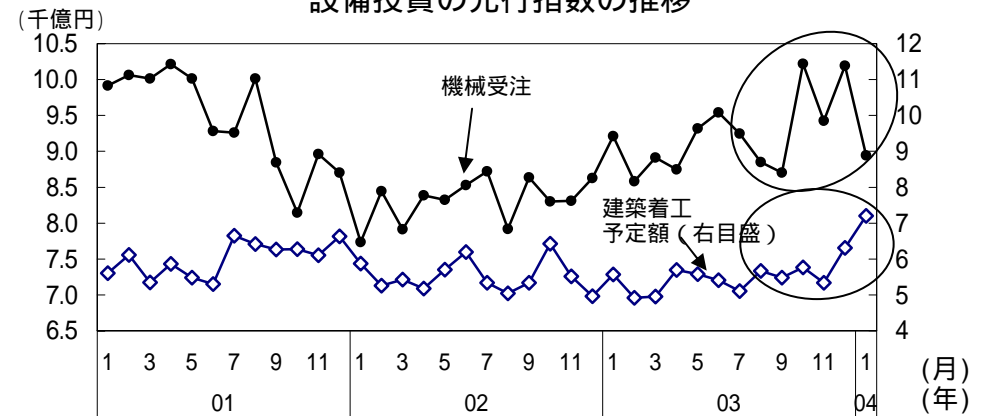


(備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」より作成。
 2. 各期の最低値を100として、最高値までを指数化。
 3. 各四半期値(04年1月は単月)にて作成。

設備投資は引き続き増加



設備投資の先行指数の推移



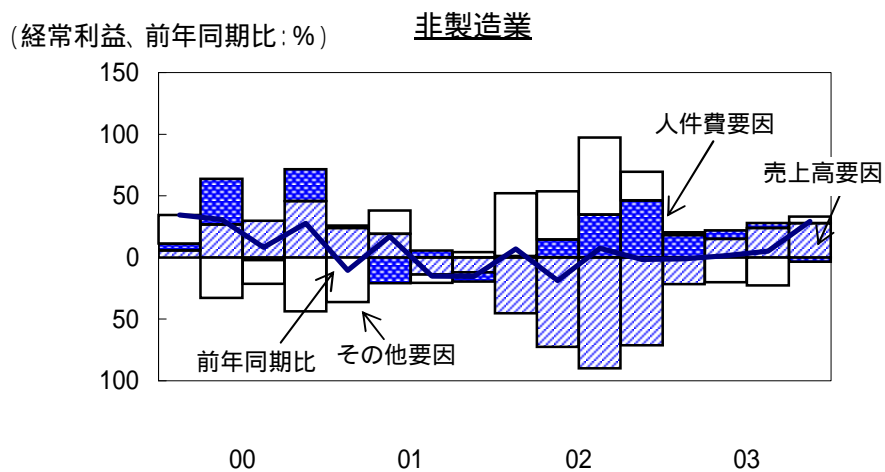
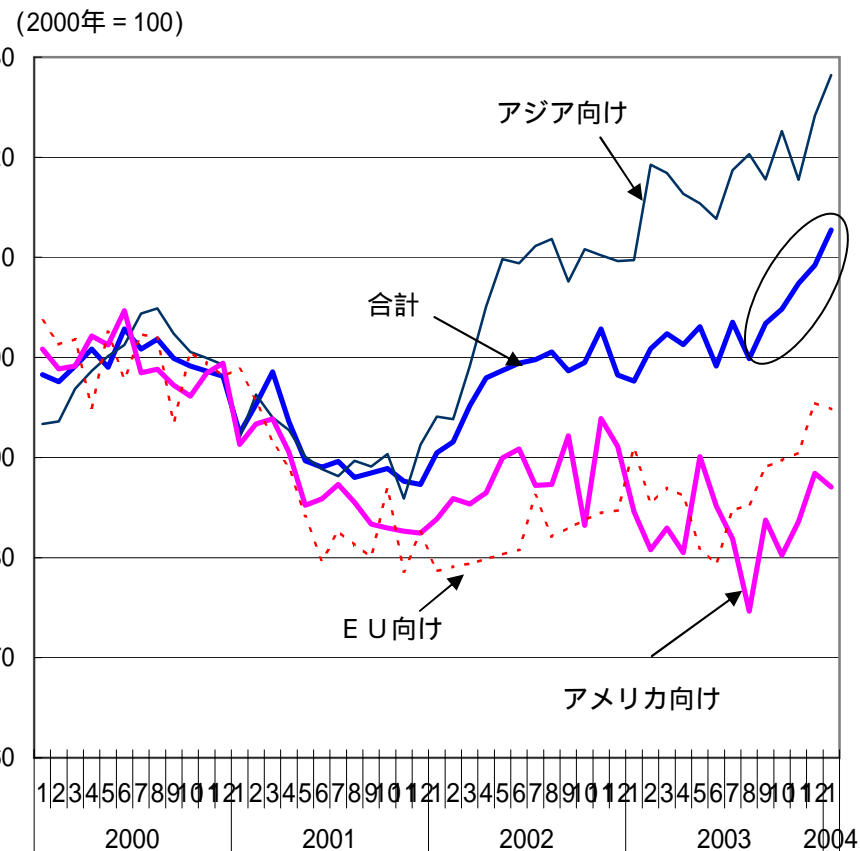
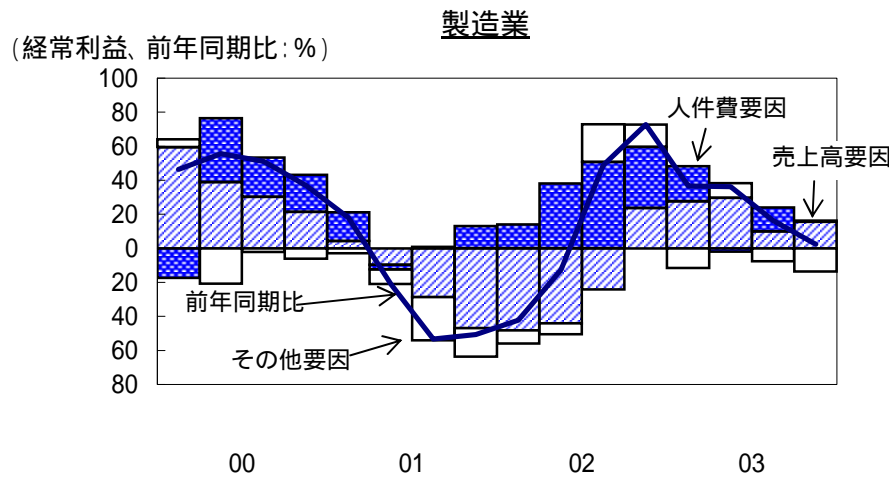
(備考) 経済産業省「鉱工業出荷指数」、除く輸送機械。
 内閣府「機械受注統計調査報告」の民需(除船電)。
 国土交通省「建築着工統計調査」の建築工事費予定額。
 季節調整値。

(基調判断)
景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続けている

企業収益：リストラ効果よりも売上増加効果で増益

輸出数量の推移

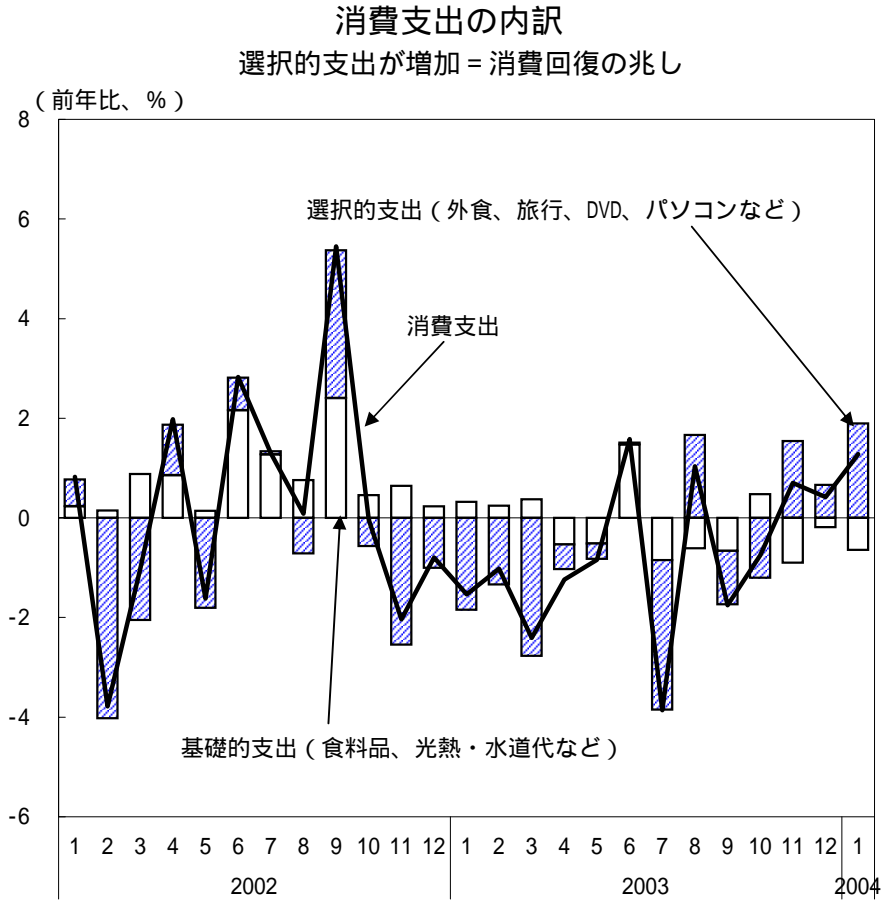
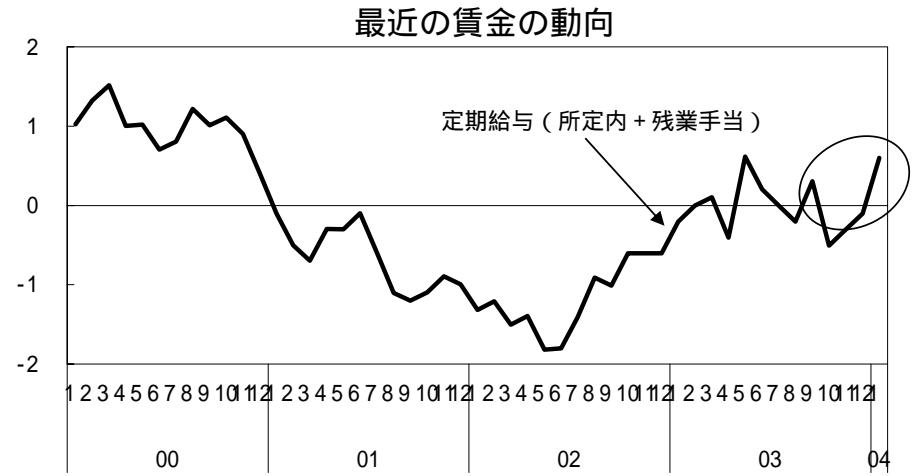
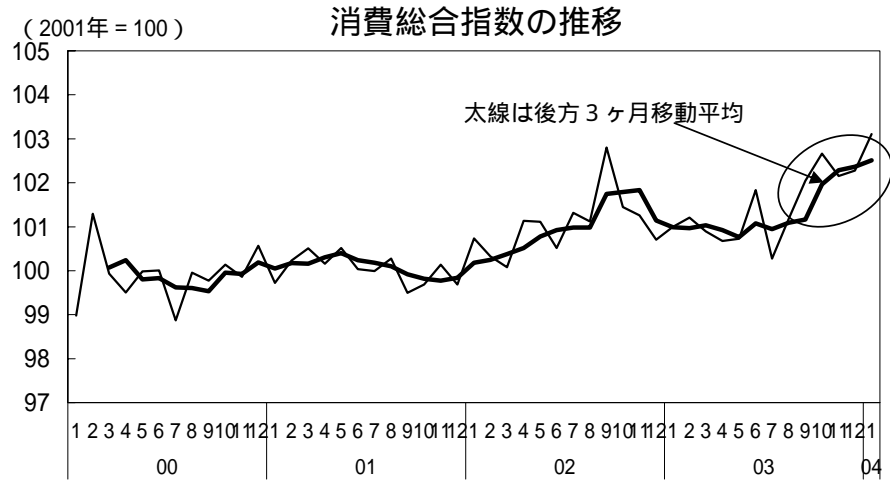
- 輸出は各地域向けに大幅に増加 -



(備考) 財務省「法人企業統計」より作成。

(備考) 1. 財務省「貿易統計」、経済産業省「鉱工業指数」により作成。
 2. 数値はすべて季節調整値。

個人消費は持ち直している

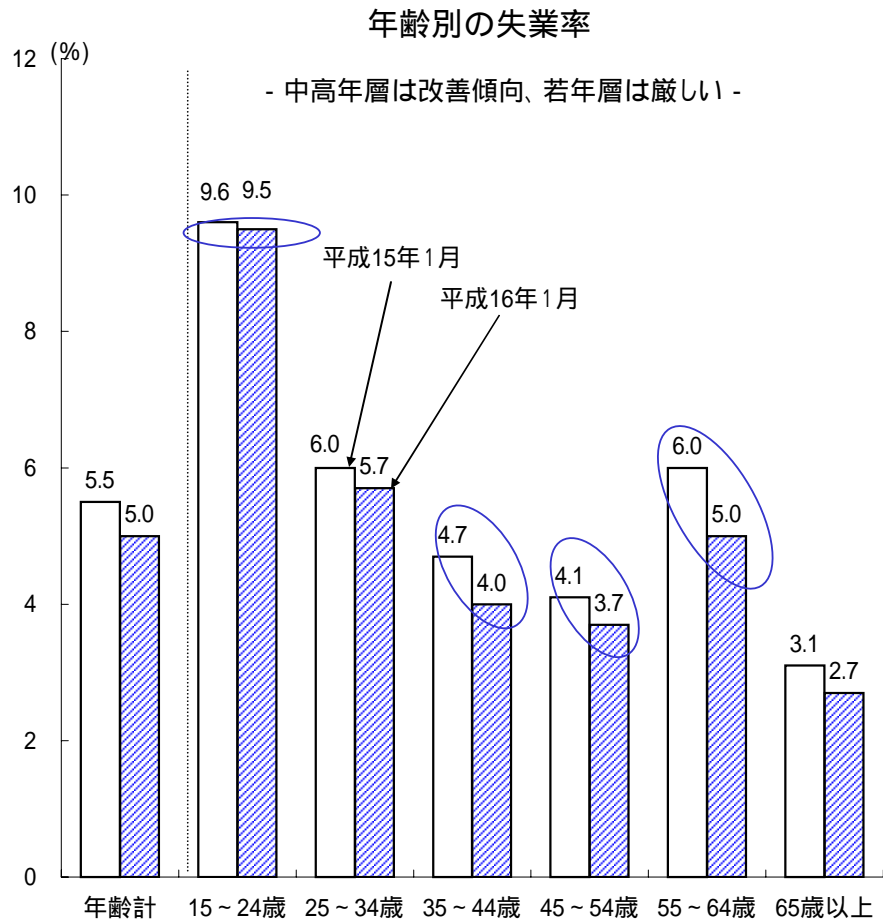
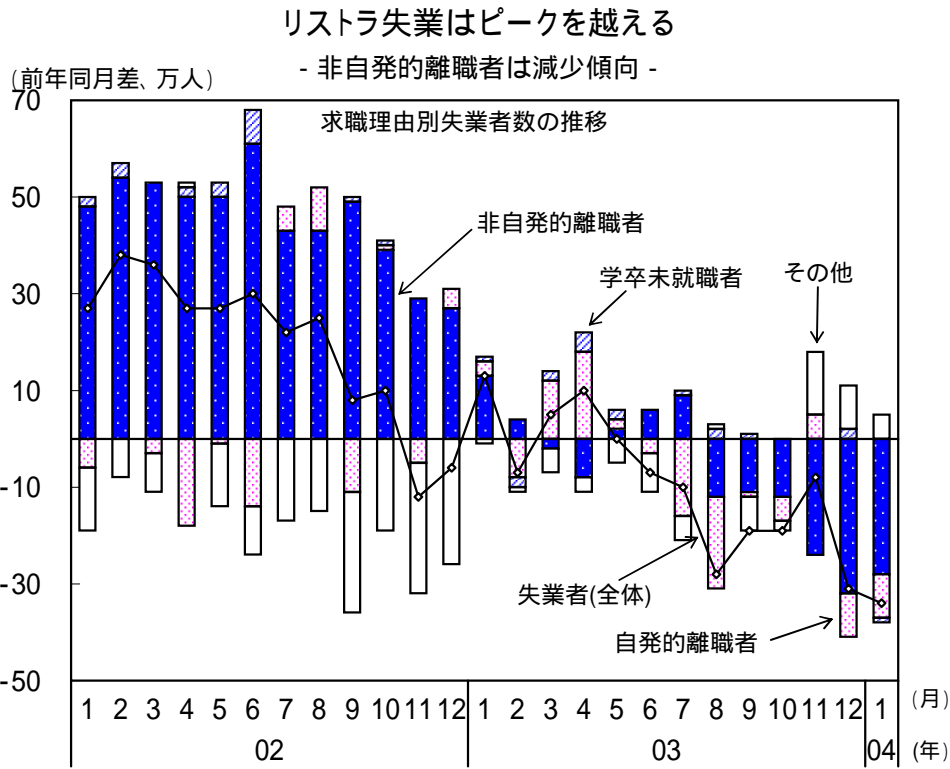


(備考) 1. 消費総合指数は、内閣府（経済財政分析担当）で作成。数値は季節調整値。
 2. 定期給与は、厚生労働省「毎月勤労統計調査」により作成。
 3. 消費支出の内訳は、総務省「家計調査（全世帯）」により作成。数値は実質値。

雇用情勢：依然厳しいものの、持ち直しの動き

失業率：5.0% (1月)

- ・ 失業率はこのところ低下傾向。
(平成15年1月 5.5% 16年1月 5.0%)
- ・ 雇用者数は持ち直しへ

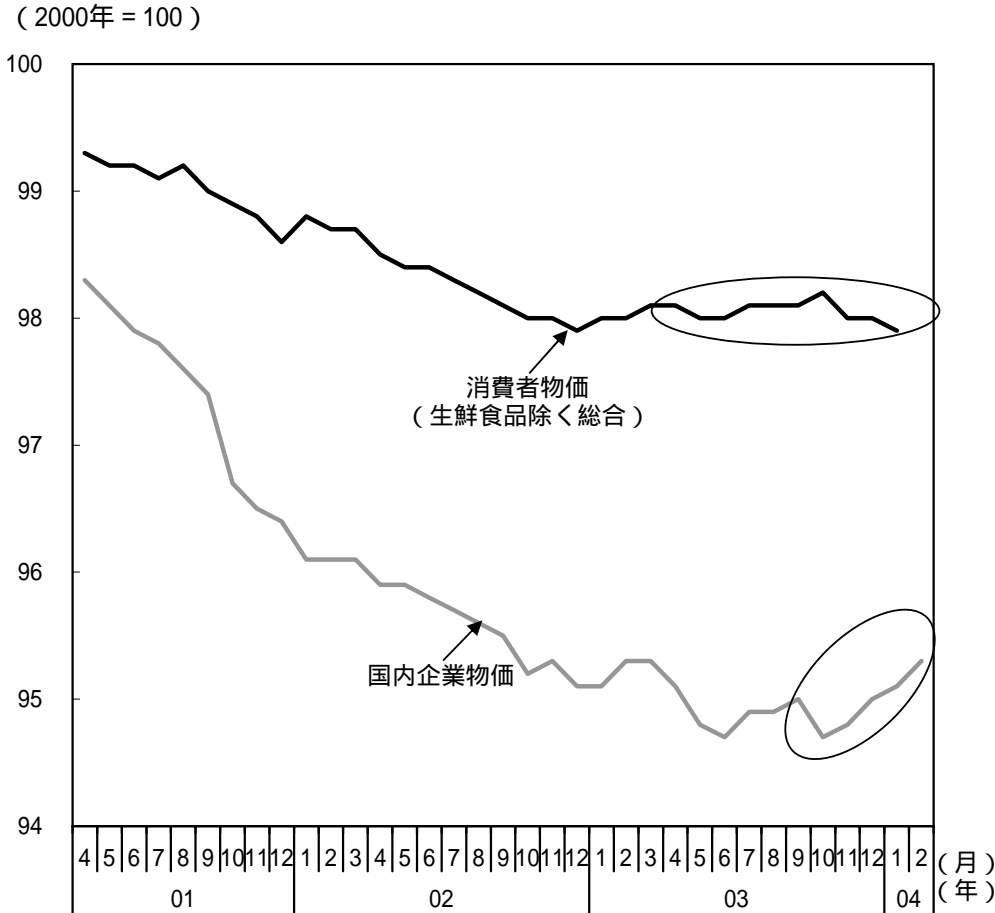


(備考) 1,総務省「労働力調査」より作成。
2,年齢計は季節調整値、年齢別は原数値。

(備考) 1 . 総務省「労働力調査」により作成。

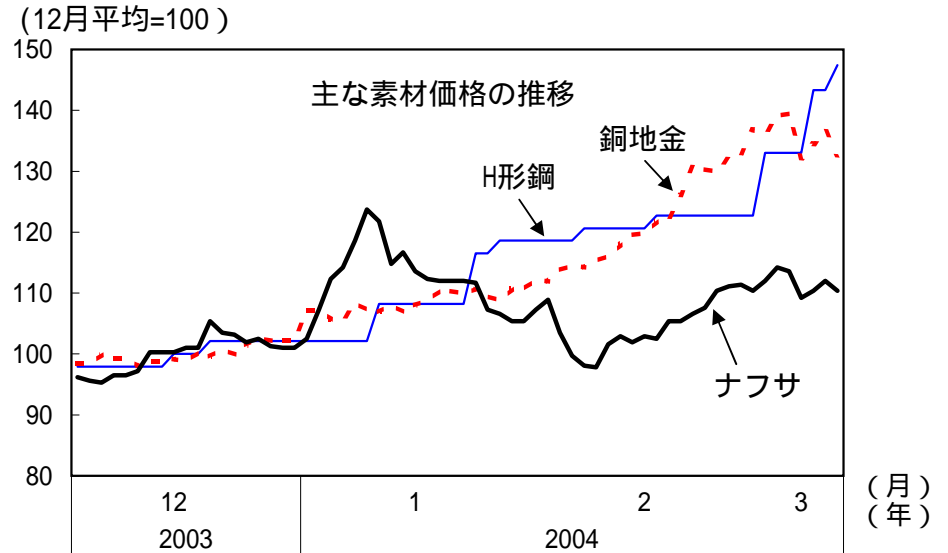
デフレの現状

企業物価は、素材価格の上昇でわずかながら上昇
 消費者物価は、横ばい

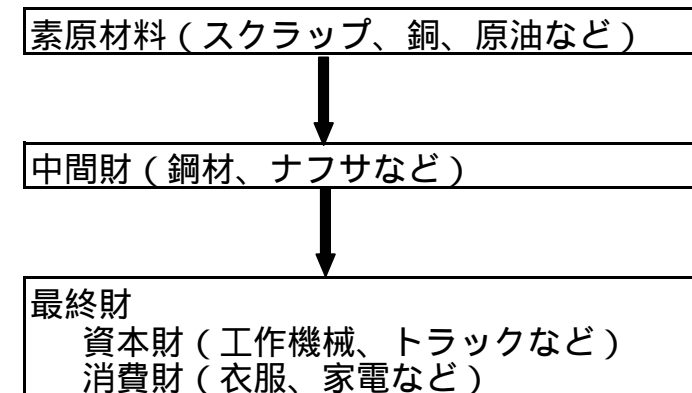


- (備考) 1. 日本銀行「企業物価指数」、総務省「消費者物価指数」により作成。
 2. 消費者物価は全国、季節調整済指数。
 3. 3月9日までの日次データを使用(日本経済新聞「日経needs」を使用)。
 素材価格については、内閣府で指数化。

素材価格が強い上昇



生産の流れ：川上から川下へ



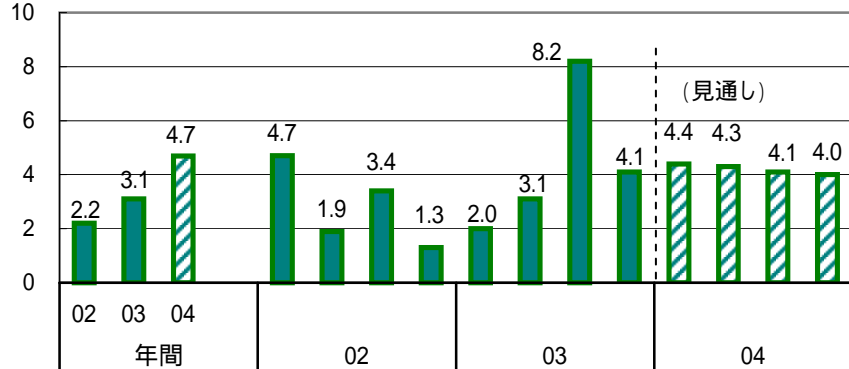
消費者物価には、消費財とサービスの価格が含まれる。

世界経済も回復続く

アメリカの景気は力強く回復

アメリカの民間エコノミストの平均的見方
- 2004年は4%台半ばの高成長 -

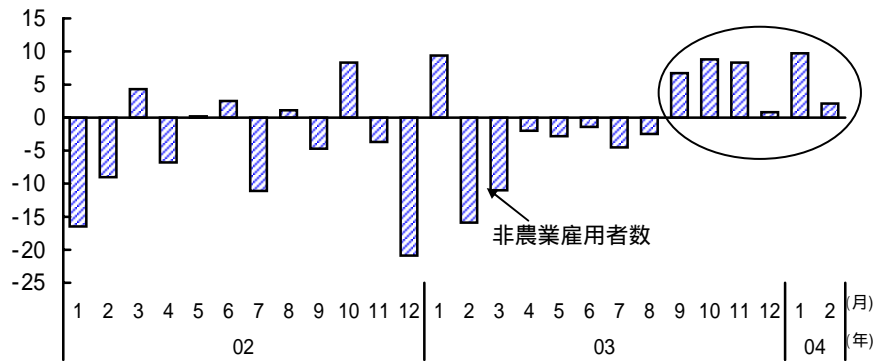
(前年比、前期比年率、%)



(出所) アメリカ商務省、ブルーチップ・インディケーター (3月10日号)

雇用の回復が依然課題
- 雇用者数(非農業)の増減 -

(前期差、万人)

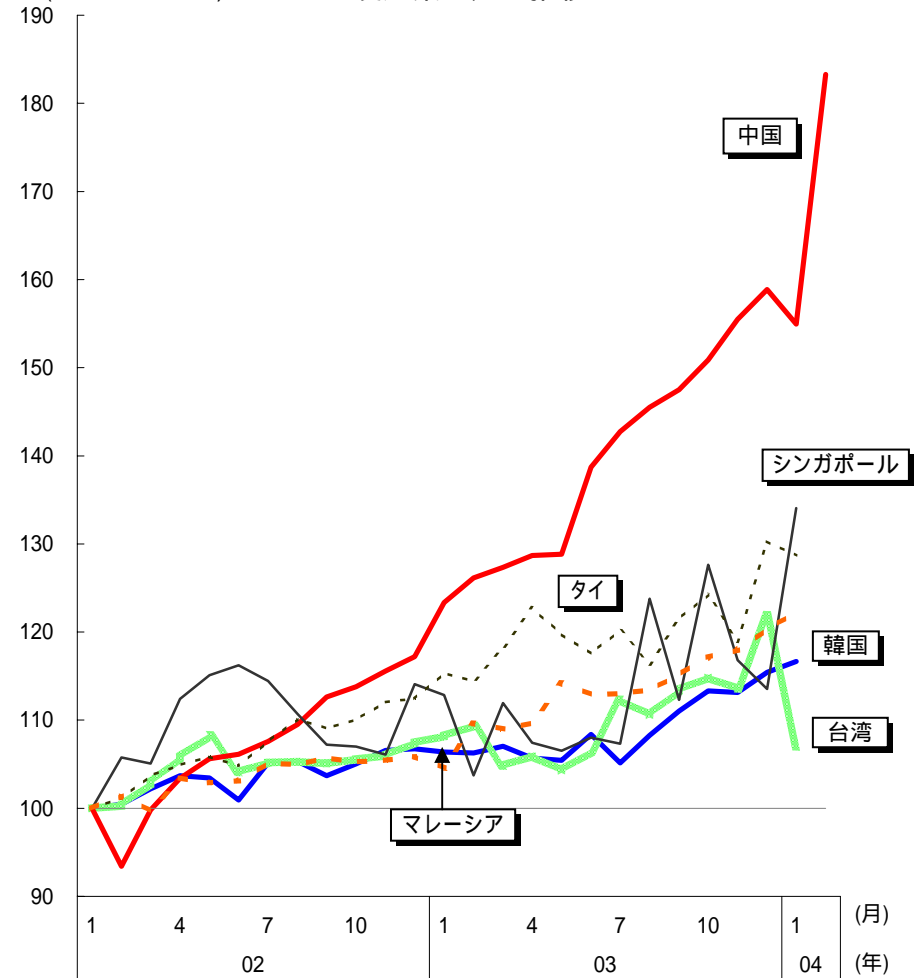


(出所) アメリカ労働省

アジアも着実な回復

- 製造業生産の推移 -

(02年1月 = 100)



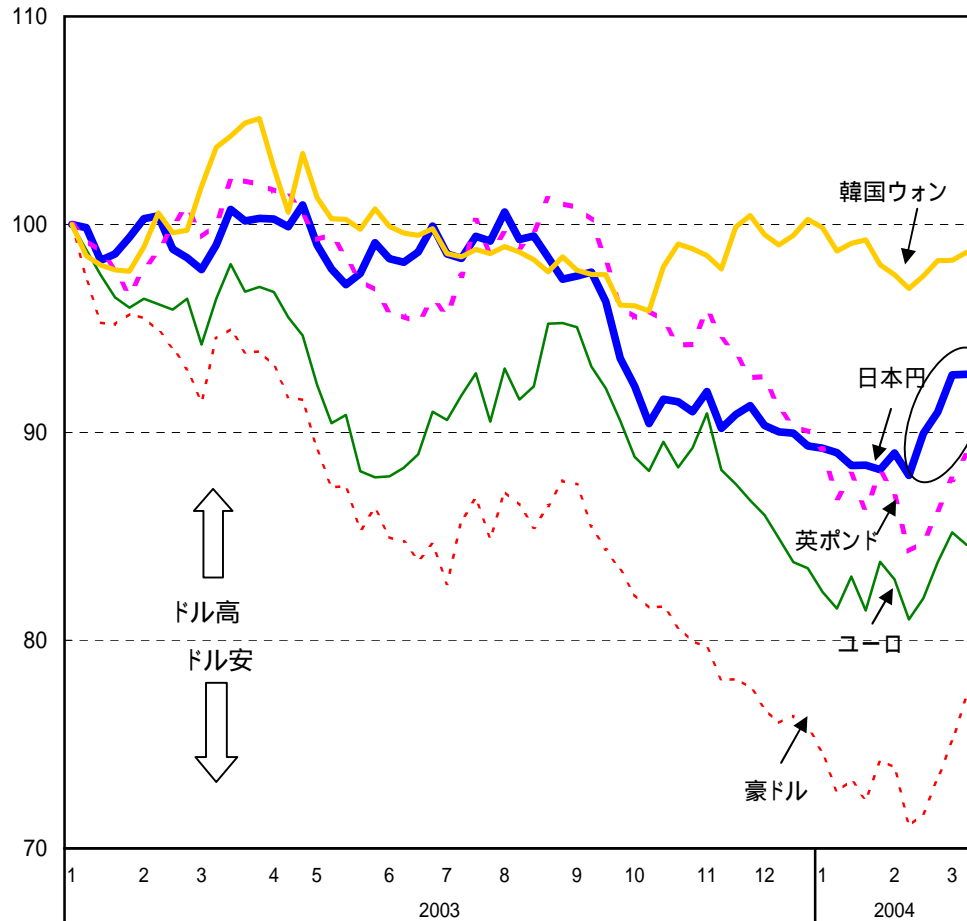
(出所) 各国・地域統計

(注) 1. 中国は鉱工業生産付加価値額。

2. 季節調整値 (中国、台湾、マレーシアは内閣府試算)。

為替・株式市場の動向

世界的にドル安修正が進む



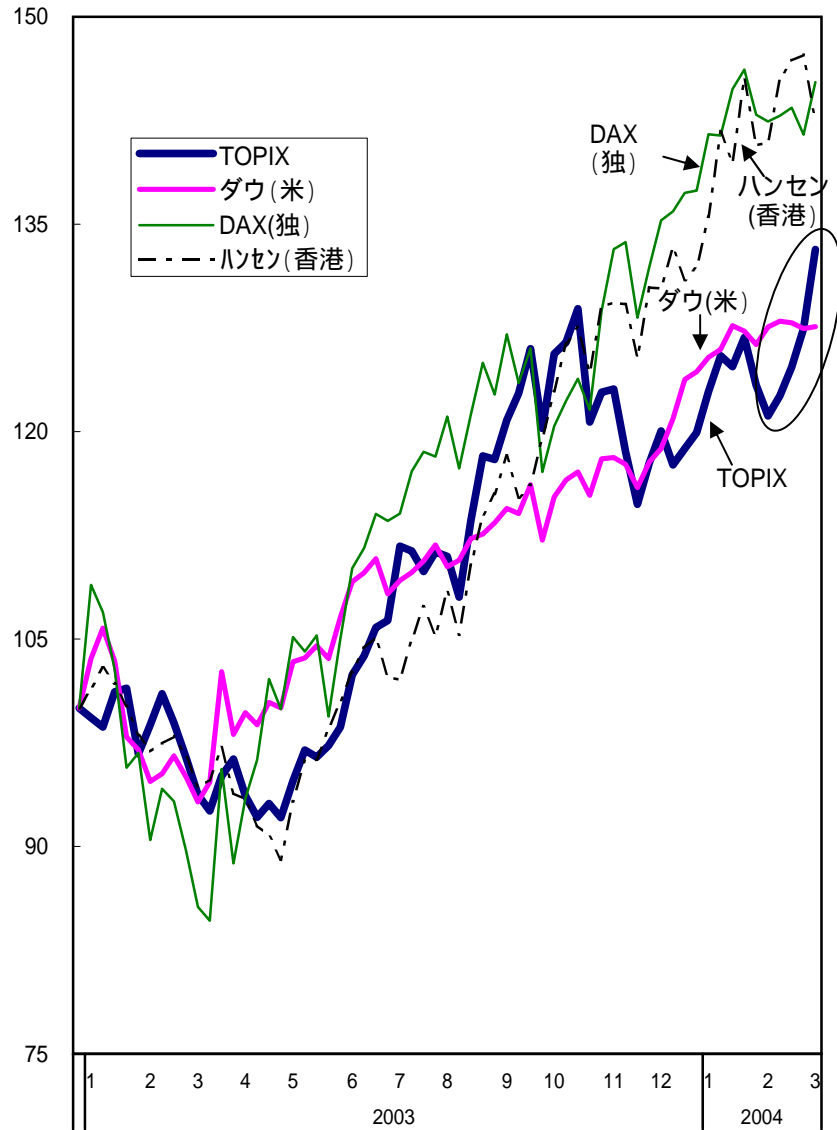
(備考)2003年初 = 100として指数化。

ドル安修正の背景(市場の見方)

- ・ 米国の成長持続期待強まる
⇒ ドルの信認回復
- ・ 米国以外の経済の回復期待
⇒ 米国経常収支赤字の縮小期待
- ・ 円売ドル買い介入で円高期待修正
⇒ 投機筋のポジション調整
など

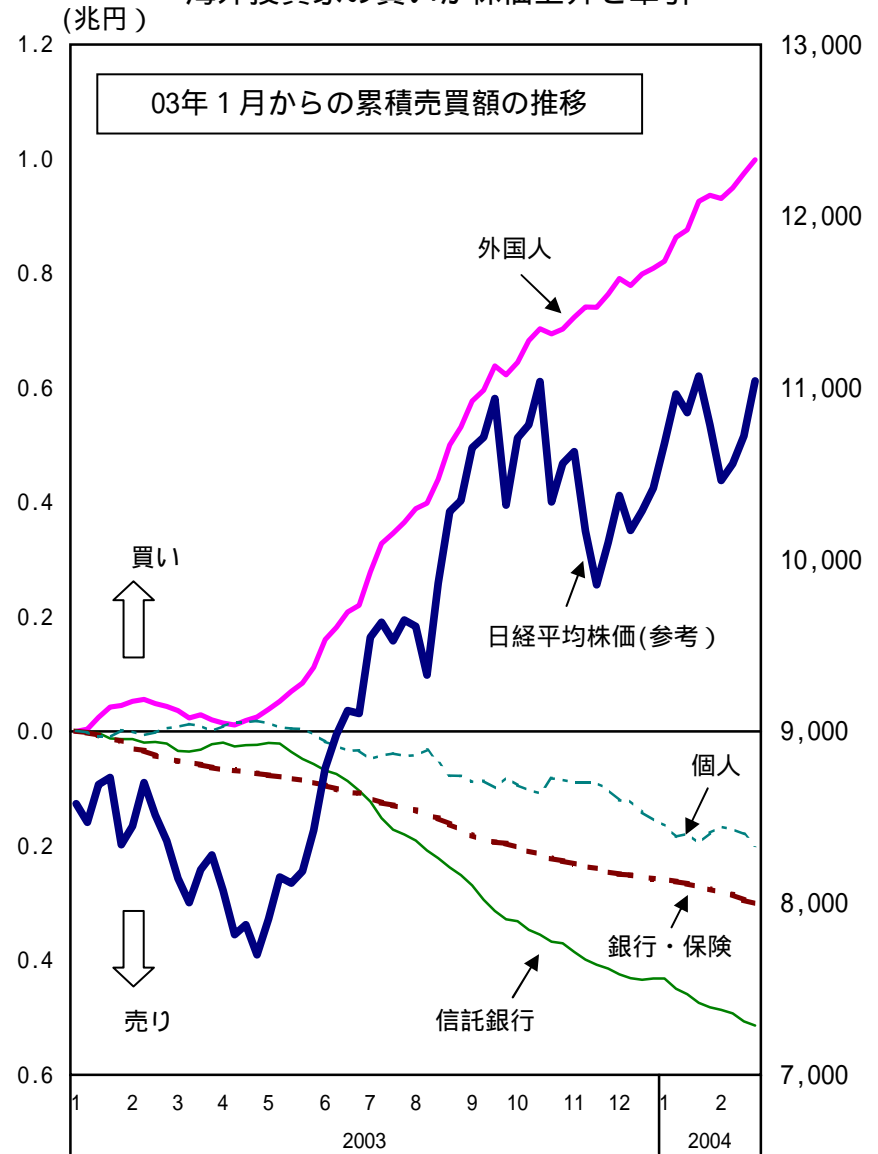
為替・株式市場の動向

出遅れ感のあった日本株価、急速に上昇



(備考) 2002年末を100として指数化。2004年3月5日終値まで。

海外投資家の買いが株価上昇を牽引



(備考) 東京証券取引所「投資部門別売買状況」より。2月27日までのデータ。